

今、なぜ、自尊感情や自己肯定感情の重要性が語られるのか

### 幼児期の天才児は早熟した職人芸

就学前教育の子どもたちの行動が改めて問題となっています。典型的な話題はマスコミ用語で言う「小1プロブレム」です。現場教師から、1年生がすっかりと変わったと言いはじめられてから10年。「学級崩壊」のように5、6年生が引き起こす教師への反発といった思春期前期の問題とは異なり、「小1プロブレム」は乳幼児期からの接触や遊びの関係が十分に育ちきらないまま小学生になったことで、集団を作ることができないことが要因の一つだといわれています。また、「10歳の壁」と教育業界でいわれる問題もあります。速読計算や暗記には強く、10本の指で教えることは素早いですが10本を超える計算になると計算できないとか、3年生ぐらいからのちょっと複雑な計算や文章題がわからない、問題ができないというよりも、わからないからやらないという意欲の問題を意味しています。数や文章の意味という概念形成ができていない幼児期に、数字だけを取り出す計算や、漢字の意味を理解することなく、すばやく読める能力だけを伸ばす方に走る一部の幼児教育のあり方も問題です。確かにこのようなやり方で学んだ子どもの中には、〇〇塾の天才と呼ばれる高度な能力を身につけた子どももいるようですが、一時期に能力が目立っても持続的な力にならないということは、多くの研究で証明されています。世にもてはやされる幼児期の天才は、基礎技術を飛び越えて一部の形だけに習熟した職人のようなものだと考えてもよいのです。

### 学力低下と感情抑制の未熟さは比例しています

集団適応能力や学習意欲の問題は、保育者や教師の教え方だけに原因があるわけではありません。子どもの自己抑制能力や自尊感情の未熟さの問題点も指摘されています。

アメリカのヴィゴツキー（注：ロシアの心理学者）研究家E・ボドロバとJ・レオング（コロラド州ヴィゴツキー研究所）によると、教師が子どもにわかりやすいようなカリキュラムを組んでも、それを容易に受け入れようとしない子どもが多いという事実を指摘しています。子どもたちは教師の指示に従うことができないだけでなく、教師の言ったことさえ覚えていないのです。指示に従うことのできない子どもは、クラスの他の子どもとも仲良くすることもできないのです。

子どもの社会性への適応問題と自己制御や自尊感情の関係はよく知られています。幼児期にこのような感情を育てられなかった子どもは、大きくなるにつれて他者攻撃性が強くなるだけでなく、関係を壊し、他者を困らせるような行動をとることが日常化します。また、他者と協力したり争いをうまく処理したりすることができないため、仲間と協力し合って学習するようなことが苦手で、将来の学習能力にも影響を与えられています。

(Hamre & Pianta, 2001; Ravner & Knitzer, 2002)。

## 保育者が子どもの社会的感情を上手に育てなければ、彼らが無秩序な行動をする種を永遠に残します

教育学者ダンカン(Duncan et al., 2007)は、自律や自尊感情は初歩的な算数や国語の能力以上に、小学校段階での影響が強いと言います。しかも、これらの感情は5～6歳の乳幼児期からの生育との関連が強いと指摘しています。学習と自律や自尊感情の関連性は、多くの学者が述べているように、集中力や注意力を求められるような学習能力に表れます。自己規制機能が不十分で、自分の感情を抑えることができない子どもは、集中力や注意力を求められるような学習能力が低いというのです。自律や自尊感情のような心の動きと、学習機能を支配している神経系の機能が共通しているからだという脳生理学者の説もあります。情緒的に安定している子どもは、その後の学習能力も安定しているのです。

アメリカの幼児教育の全国的な会合での発表によると、入学前の46%の子どもが、自律や自尊の基本となる、自己抑制能力に欠けるそうです。また、別の会合での報告では隣の子どもをけったり、脅したりするような社会的な感情を抑えることができない40%の子どもが、1日に1回は攻撃的な行動をし、中には1日6回以上も同じようなことをする子どもがいたそうです。別のクラスでは10分間の間に32回も攻撃的な行動や言葉づかいが見られたと報告されています。

このような乱暴で攻撃的な子どもの行動は、決して生まれつきによるものではなく、幼児期に保育者によってどのように教えられるかによって、このような感情が高まったり、減退したりするということがわかってきました。質的に優れたカリキュラムで運営される保育園では、子どもの自律や自尊力が高まることがわかってきましたが、その反対が存在することも真実です。(Arnold, McWilliams, & Arnold, 1998 の言葉によれば「保育者が子どもの社会的感情を上手に育てなければ、彼らが無秩序な行動をする種を永遠に残す」と言います。